「私たちは神のメッセージを聞き逃しています。」

By David Wilkerson

October 8, 2001 2001年9月11日 火曜日、ニューヨークにあるワールドトレードセンターのツインタワーが破壊されました。5日後、
このメッセージを用意している時に、私はアパートの三十階にある書斎の窓から外を眺めました。大きな煙の雲が
まだその廃墟からくすぶり出ていました。そして、それらの煙は瓦礫から出て、ハドソン川上を漂い、自由の女神の 上空を過ぎていました。

次の日曜日、タイムズ スクエア チャーチで私がこのメッセージを語ったちょうど前、そのひどい廃墟の光景を見て
私は涙を流しました。主に哀れみを請いました。愛する者を失い、悲しみにある家族への哀れみです。
生存者を発見することを望みながら、未だ瓦礫の中を掘り続けるものの、遺体と体の一部しか出てこないといった状況で
働く救助隊員たちへの哀れみ。説明しようのない惨事を目の当たりにし、人目もはばからず涙を流すすべての警察官、 消防士、ボランティアスタッフへの哀れみを。

私たちの教会は被災地のゼロ地点（爆心地点）にて救助テントを張ることを許されました。私たちの会衆からの
ミニストリーリーダーたちとボランティアのスタッフは時間を度外視し、たゆみなく、疲れた救助隊員たちに食事を与え、 また励ますサポートをしてくれました。

実は惨事の６週間前、聖霊は私たちの牧会スタッフに災難が訪れることを前もって警告していました。
数週間後には、私たちは宣教大会、青年大会を含むいくつかの大きなイベントを予定しておりましたが、
神の霊は私たちにすべてをキャンセルさせるよう促しました。そしてその代わりに、私たちは会衆に祈りを呼びかけるよう 駆り立てられたのです。

私たちは週に４晩、祈祷会を持つことを決めました。それぞれの集会は、実に初回から会衆の上に降りた重々しい静けさで
印象付けられました。主の臨在の中で、静かに私たちは、時には全く音もなく1時間もの間ただ座っていることもありました。
そして、静かな涙と悲痛な悔い改めがそれに続いたのです。ある集会で、私は神の重々しい臨在の中で震えが止まらず、 ひざを手で抑えなければならないこともありました。

この主の訪れの間、聖霊は、私たちの心の中にある嘆き悲しみには理由があることを教えてくれました。
私たちの心はたいへん揺り動かされていました、それは災いがやって来る故のものだったのです。過酷な災いが国に迫っていました。
そして、たとえ私たちはそれが一体何なのかわからなくても、私たちの心はそのことに関してとりなしの祈りをするよう動かされたのです。

そして突然、惨事が襲いました。それは私たちの街だけでなく、国の首都をも襲いました。あるニュースのアナウンサーははっきりと言いました。「考えても見てください。私たちの力と繁栄の２つのシンボルが1時間の間に打ちひしがれたのです。」彼は想像もしなかったでしょうが、彼は黙示録の18章10節を引用していたのです。「ああ、大いなる都バビロン、不落の都！ １時間でおまえに対する裁きはやってきた。」

私たちの教会に属する一人の警察官がゼロ地点にて救助活動を行っていた際、仲間の警官は彼に問い続けました。「一体これは何なんだ？ 何が起こったって言うんだ？ 」
と。そうしているうちに、国中が問いだしました。「神は一体こんな時にどこにいるんだ？ 」と。私たちがこの問いを持つことは間違ったことではありません。この惨事の中、神がどこにいるのかということを私たちは知る必要があります。そして、それを知るには、神の聖なる御言葉のみに信頼をおかなければなりません。私たちはすでにメディアの専門家や政治家から何百もの意見を聞いております。しかし、彼らのレトリックはみんな同じように聞こえ出しています。この突然の破壊の意味に関して真の理解がなされていないのです。

一つだけ、私が皆さんに断言できることがあります。私たちは神に不意打ちをかけることができません。神はすべての人間が考えていることを知っております。それはすべての統治者、独裁者、テロリストを含みます。主は、全人類のひとりひとりの動きを監視しておられます。主は私たちが座るときも立つときもご存知なのです。そして、皆さんに確実に言える一つのことは、神はすべてを支配されている、ということです。主が知ることなしに、地球上では何ものも起こりえません。それには主の許しが要ります。また時には主ご自身がその後ろで事をなされます。

あなたがクリスチャンなら、神がアメリカ、そして世界中にこの惨事を通して、 メッセージを届けたことはおわかりでしょう。
牧師や神学者たちはどこでもこう言っています。「神はこれらの惨事とは何の関係もありません。神はそのような恐ろしい事が起こることをお許しにはならないでしょう。」
しかしながら、そのなかに真実はありません。このように考えていては、私たちの国は神が私たちに悲劇を通して伝えたいメッセージを即座に逃してしまうことになります。

実際、私たちは神から御言葉を受け取らなければなりません。多くの牧師たちのように、私はこのひどい惨事に涙し、嘆き悲しみました。祈りの中や御言葉を通して主を求めました

□□□

[illegible]9:11[illegible]13[illegible]

[illegible]10:5[illegible]6[illegible]

[illegible]

[illegible]9:10[illegible]

[illegible]9:9[illegible]

[illegible]9:10[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]…[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]DC[illegible]

[illegible]

[illegible]10:11[illegible]

[illegible]

[illegible]10:12[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]18:31-32[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]9:18-20[illegible]

[illegible]

[illegible]1992[illegible]

[illegible]

[illegible]:
30[illegible]

[illegible]

[illegible]3[illegible]

[illegible]

[illegible]11[illegible]19[illegible]

[illegible]

[illegible]22:15-20[illegible]

[illegible]